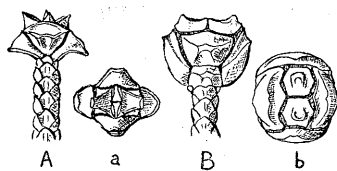
氏ガ述ベラレタ如クひゆヲ用フル事ハヨクナク、又あをびゆヲ使フ事モ筆者ハ疑問ニ思フ。何故ナラソノ名ハ、筆者ノ知ル範圍デハ、松村先生ガ名鑑デ書カレタノガ早ク、ソノ時用ヒラレタ臺灣産ノ標本ハ現ニ東大腊葉庫ニアリ中井先生ガ植物學雜誌 35 卷 [122] 頁及ビ 143 頁デ指摘サレタ如ク、*Euxolus caudatus* MOQUIN デアル。牧野先生ハあをびゆノ和名ヲ *A. retroflexus* ニ用ヒラレルガ、更ニ古イ出典ガアルノカドウカ分ラナイ。兎ニ角混雜ヲ避ケルタメ **A. retroflexus** L. ニハ、名鑑ニモアリ標本ニモ手書サレテキル**あをげいとう**(松村) ヲ採用スレバヨカラウ。

最近近郊ノ路傍等ニ普通ニ見受ケルモノニ別ノ一品ガアル。あをげいとうニ比シテ、穗ハ遙カニ瘠細デ疎ニ感ジ、苞ガ目立タナイ。全體綠色ノ個體ト、莖・葉柄等ガ暗紅色ヲシタモノトアリ、莖ハ多少軟毛ヲ有シテキル。苞ハ長サ 2-3 mm 許、花被ハ長サ 1.5-2 mm 許デ先端ハ鈍頭微凸端ヲナシ、概ネ苞ハ花被ヨリ少シ長イ程度デ、果實ハ花被ヨリ稍長イ。コノ形ノモノハ現在本州、四國、九州ニ廣ク歸化シテキル樣デアル。學名ハ **Amarantus patulus** BERTOLONI, Comm. Itin. Neap. p. 19, t. 2 (1837) ヲ用ヒテヨイト思フ。和名ハ未ダナイカラ**ほそあをげいとう**ト新稱スル。THELLUNG ハ ASCHERSON et GRÆBNER, Synop. Mitteleurop. Fl. V-1 (1914) デひゆ類ヲ精査シ、コノ形ヲ *A. hybridus* L. subsp. *cruentus* THELLUNG var. *patulus* THELLUNG トシテキル。又すぎもりげいとう (*A paniculatus* L.) ヲ *A. hybridus* L. subsp. *cruentus* THELLUNG var. *paniculatus* THELLUNG トシテコノ近クヘオキ、其他ノ種デモ複雜ナ組合ヲ作ツテキルガ、分類學上ハソレガ正當ノ位置デアラウ。尙近似ノモノニ **A. hybridus** L. (=*A. hybridus* L. subsp. *hypochondriacus* THELLUNG var. *chlorostachys* THELLUNG=*A. chlorostachys* WILLDENOW) トイフモノガアリ、ほそあをげいとうニ比シ更ニ穗ガ長ク疎デ、苞ハ長サ 3-5 mm ニ達シ花被ノ略二倍アリ、花被ハ稍銳頭デアル。コノ形モ亦我國ニ入ツテキル樣デ關本平八氏ガ宇都宮市デ採ラレタノガコレニイルベキモノト思フ。和名ハ**ほながあをげいとう**トスル。併シほそあをげいとうトノ區別ハ可成リ難シイ場合ガアリ中間形モデテキテ THELLUNG ガ別種トシナカツタノモ成程ト頷カレル。　（原　寬）

○あすなろトひのきあすなろ

秋田縣植物誌 (村松七郎氏)、管內國有林植物目錄 (秋田營林局)、山形縣植物誌 (結城嘉美氏)等ニハあすなろ (*Thujopsis dolabrata* SIEB. et ZUCC.) ダケ、岩手基準帶植物目錄 (青森營林局) ニハひのきあすなろ (*T. dolabrata* var. *Hondai* MAKINO) ダケヲ擧ゲテ居ル故ニ、奧羽ノ裏日本ニあすなろガ表日本ニハひのきあすなろガ分布シテ居ル樣ニ見エルガ、日本有用樹木分類學 (工藤祐舜博士)、日本植物總覽(牧野富太郎博士・根本莞爾氏)、東亞植物 (中井猛之進博士) ニヨレバ、本州北部・北

あすなろトひのきあすなろ毬果
A. a: *Thujopsis dolabrata*. B. b: *T. dolabrata* var. *Hondai*. A. B. 側面圖。a. b: 上側面圖。(略々實物大)

海道南部ニハひのきあすなろダケ產スル様ニ記述シテ居ラレル。筆者ガ秋田縣北秋田郡大葛村ニ採集セルモノハ、毬果ハ日本有用樹木分類學及ビ日本植物總覽ノひのきあすなろノ記相文ニ符合シ、牧野富太郎博士ニ鑑定ヲ御願ヒ申シ上ゲタトコロひのきあすなろデアツタ。

栃木師範ノ關本平八氏ニ御依頼シテあすなろノ正品ヲ得テ、兩者ヲ比較シテ見タトコロ毬果ハ恰モ別種ノ如キ感アリ、或人ハ獨立種ト考ヘタノモ無理モナイ様ニ思ハレタ。兩者ノ毬果ノ圖ハ吾々採集家ニハ一寸見當ラナイカラ、茲ニ出シテ頂クコトトスル。圖ノあすなろ(A. a.) ハ、關本氏ガ昭和11年6月16日栃木縣芳賀郡小貝村ニテ採集セルモノニ依リ、ひのきあすなろ (B. b) ハ、筆者ガ昭和9年6月24日ニ秋田縣北秋田郡大葛村ニテ得タルモノニ依ル。

最後ニ御教示ヲ賜ハリマシタ牧野博士、あすなろノ標本ヲ送ラレタル關本氏ニ厚ク御禮ヲ申上ゲル。 (松田孫治)

○ぎんりやうさうトこぎんりやうさうノ發生ノ時期

ぎんりやうさう (*Monotropa uniflora* L.) トこぎんりやうさう (*M. Morisoniana* MICHX.) トハ、前者ハ5花瓣デ後者ハ3花瓣デアル點ヨリシテ容易ニ區別サレルガ、又發生ノ時期ヲ比較シテ見ルニ、こぎんりやうさうハ初夏 (6月頃) ニ發生シテ8月頃ニハ既ニ果實ヲ上ニ向ケテキルガ、ぎんりやうさうノ方ハ8月中旬頃ニ發生スル様デアル。然リトスレバコノ點ヨリシテモ兩者ヲ區別スルコトガ可能デアル。 (松田孫治)

○いはたけ科地衣ノ分類體系

世人ニハアマリ縁ノ無イ地衣類ノ中デモいはたけノ類ハ比較的ニ有名デ、植物採集家デナクトモ、高山ニ登ツテ岩壁ニ着生シテキルアノ眞黒ナ奇妙ナ地衣ヲ見タ人ハ、コレガいはたけト云フ食用ニナル珍物デアルカト深ク印象ヅケラレタコトト思フ。サテコノいはたけノ種類ハドウセ大シタコトハナイダラウト思フト大變ナ間違ヒデ、既ニ數十種類モ記載サレテキテ、ソノ分類ノ様式モ色々ト問題ニナツテキル。最近 E. FREY ト P. F. SCHOLANDER トガ相前後シテ從來ノいはたけ科地衣ノ分類體系ヲ全ク變ヘテ了ツタ。コノ兩者ノ説ハ全ク出發點ヲ異ニシ、從ツテ結論モ全ク類似性ノナイモノデアル。筆者ハ日本產ノいはたけ科地衣ヲ記述スル際ニコノ兩者ノ何レヲトルカ、或ハ從來ノ體系ニ從フカ、又ハ獨自ノ新シイ體系ニヨルカ、何レニシテモ態度ヲハツキリ決定シナケレバナラナクナツタノデ、少シク先人ノ業績ヲ檢討シテ見タトコロ、ドウモソノ何レニモ賛成シカネルノデ、從來ノ體系ニ多少手ヲ入レテ一ツノ新シイ體系ヲ編出シタ次第デアル。

此處デハ先ヅ前人ノ業績ヲ批判シ、次ニ新體系ヲ披露スルコトニシタイ。

1. Acharius ノ分類法

地衣命名學ノ開祖 ACHARIUS ノ最初ノ體系[1]ニ依ルト、「體ハ葉狀デ堅ク軟骨様、裏面ノ

1) ACHARIUS, ER.: Försock till en förbättrada Lafvarnes indelning (Dianoe Lichenum), in Nov. Act. Reg. Acad. Sci. Suec. Holmiae XV, p. 244(1794).